

高速道路の交通事故発生状況と安全運転のポイント

県内高速道路の交通事故発生状況（平成26年中）

区分	人身事故									物件事故			合計				
	件数			死者			傷者			前年比			前年比				
	前年比		件数	前年比		件数	前年比		件数	前年比		件数	前年比		件数	前年比	
	件数	%		件数	%		件数	%		件数	%		件数	%		件数	%
合計	127	-43	-25.3	3	-1	-25	222	-154	-41	1114	-20	-1.8	1241	-63	-4.8		

【平成26年中における交通事故発生の特徴点】

- ・交通事故総数は1,241件（前年比-63件）で4.8%減少しています。
- ・交通事故は、15時～17時の時間帯が多く（全事故の23.0%）、21時～23時の時間帯が少なくなっています。（全事故の4.9%）
- ・休日（土・日）の交通事故は、457件で全事故の36.8%を占めています。
- ・死亡事故3件は、すべて新潟線で発生し、上越線・北関東道・東北道での発生はありません。形態は、車と歩行者1件、自動二輪車及び軽四乗用車の単独事故がそれぞれ1件となっています。

安全運転のポイント

- ◇ **交通事故や車両故障等が発生した場合には、後続車両への安全措置をとった後、ガードレールの外側などの安全な場所へ待避しましょう。車道は立つことは大変危険です。**
【後続車両への安全措置】
 - ・停止表示器材（三角表示板等）や発煙筒で後続車両へ知らせましょう。
 - ・道路緊急ダイヤル（#9910）又は非常電話を使用して道路管理者へ通報しレッカー車等を依頼しましょう。
- ◇ **高速道路を利用する際は、十分な事前準備と速度の緊張が必要です。**
【事前準備】
 - ・体調を整え、ゆとりある運転計画を立て、気象条件など必要な情報を入手しましょう。
 - ・車両（タイヤ・オイル・バッテリー等）や燃料の点検を確実に行いましょう。
 - ・荷物の点検をして落下物事故を防ぎましょう。
- ◇ **追越車線ばかり走行していると速度超過や車間距離不保持違反になりやすくなり、目前の危険に素早く対応できません。追越しが終了したら、その都度走行車線に戻り、（キープレフトの原則）、安全速度と車間距離を確認することが大切です。**
【重大事故に直結する交通違反等】
 - ・速度超過・・・本線車道上に停止車両や落下物があっても避けられません。
 - ・車間距離不保持・前車が急にブレーキをかけても回避できる十分な車間距離が必要です。
 - ・通行帯違反・・・必要以上に追越車線の走行を続けると違反になる場合があります。
 - ・シートベルト・・・全席着用義務があります。
- ◇ **電光掲示板やハイウェイラジオで幅広く情報を収集し、進路前方の危険をいち早く察知することが大切です。**
【情報収集のポイント】
 - ・「故障車、事故、落下物」ありの表示を確認したら走行車線に戻り、速度を落として特に走行に注意しましょう。
 - ・「逆走車、人の立入り」などの場合も、走行車線に戻り速度を落とし前方に十分注意してください。
 - ・いつもと違う速度規制がされている場合は、“近くに異常がある”と考え注意しましょう。
- ◇ **IC、SA、PA付近の合流時には他車の動きに注意しましょう。**
【走行時のポイント】
 - ・ICなどから本線に入ろうとするときは、本線車道の走行を妨げないよう十分加速してから合流しましょう。
 - ・本線車道を走行している車両は、ICなどから流入する車があるときは、後続車の動静を確認の上、支障がなければ追越車線に入るのが安全な運転です。